

主体的にねばり強く何事にも取り組む児童生徒の育成 ～つながりを大切にした小中一貫教育～

1 目指す児童生徒像

学びのつながりに気付く子

学びの過程を通じて、学習内容や既習事項、他教科とのつながりや、自分の経験・生活と関連付けながら思考を深め、自らの学びに意味付けを行うことができる子供

人とのつながりを築く子

友達や教師、地域の人々と対話したり協働したりする中で、自分の考えを伝え、相手を認め、共に学ぶ姿勢をもつ子供

2 研究仮説

【仮説1】 9年間の学びをつなげる ～「問い」と「思考・表現」～

教科等横断的な視点をもちつつ学年相互の関連を図りながら義務教育9年間の連続性ある学習指導を通して、児童生徒は、教科等や日常生活、さらには自己の願いや目標と学びを結び付けて捉えるようになるだろう。

【仮説2】 子供の育ちをつなげる ～心～

発達の段階に応じた切れ目のない生徒指導・教育相談・特別支援教育における心と行動する力の指導を通して、児童生徒は、皆や自分がよりよい生活を送るための自分の役割を知り、豊かな生活を送ることができるだろう。

【仮説3】 小中の教職員がつながる ～学び合い・高め合い～

小中の教員が「9年間の学びのつながり」「子供の育ちのつながり」について学び続け、共通理解・共通指導することを通して、児童生徒は、学年や学級が変わっても同じ指導のもと、成長することができるだろう。

【仮説4】 学校・家庭・地域がつながる ～皆ではぐくむ～

目指す子供の姿を共有するとともに、地域の教育資源・児童生徒の学習に協力することのできる人材を生かした学習指導を通して、児童生徒は、多くの人からの愛情を受け、学ぶことができるだろう。



3 具体的な取組（８月２７日の部会から）

（１）教育課程・授業研究部会

- ねらい 義務教育９年間の教育課程の捉え直しと授業実践を行う。
（令和７年度「総合的な学習の時間」）
- 取 組 ①年間指導計画の見直し（教科等横断的（横）、学年相互（縦））
②授業実践

（２）生徒指導・生活指導部会

- ねらい 義務教育９年間で、発達の段階に応じた生徒指導・教育相談・特別支援を共通理解・共通指導する。
- 取 組 ①生徒指導部会
・「原中授業スタイル」を発達の段階に応じた「〇〇小授業スタイル」を作成し、共通指導する。（教室掲示）
・言葉遣い
- ②教育相談部会
・スペシャルサポートルームの活用
・ソーシャルスキルトレーニング
- ③特別支援部会
・あいさつができる、身だしなみを整える力を育てる
・愛される子、助けてもらえる子、社会で働ける人を育てる

（３）連携部会

- ねらい 児童生徒の活躍の場を増やし、自己有用感等を向上させる。
地域の方々との交流の場を増やすことや地域人材を活用した授業を展開することで、児童生徒の学習意欲の向上につなげる。
- 取 組 ①地域連携
・記録を残す
・ユニクロとコラボ
- ②児童生徒交流
・英語のスピーチ交流（オンライン） 発表会交流
- ③３校ＨＰ（情報発信）
・児童生徒、保護者、地域の方々が閲覧できるものを作成

（４）調査・環境部会

- ねらい 研究の成果と課題を、アンケート調査により明らかにする。
校内の掲示物等を整える。
- 取 組 ①先行研究されている国・県学調の調査項目から抜粋しアンケート調査項目を絞る。
②各部会で作成した掲示物を整え、校内環境を整備する。

今後、（１）（４）は必須、（２）（３）については、共通して取り組むものを
１つくらいにして、他は各校の実態に応じて取り組むことでいかがか。